

教養教育としての読み書き教育の実践

— 新見公立大学・短期大学教員の取り組み —

福岡 悦子*・原田 信之・久保田 トミ子・吉村 淳子・山内 圭

新見公立大学・短期大学教養教育委員会

(2011年11月22日受理)

新見公立大学・新見公立短期大学では、開学時より教養教育の充実に努めてきた。2011年度には、本学教員が各自の授業でどのような読み書き教育を行っているかを調査することになり、将来構想委員会と教養教育委員会との合同調査を行った。調査は「読み書き教育に関する独自の工夫」について文書で自由に報告してもらう形をとり、全教員46名（育児休職者1名を除く）中、39名から事例が集まった（回答率84.7%）。全事例を意味の類似性によって分析した結果、【書かせる】【読ませる】【考えさせる】【発表させる】【まとめさせる】【その他】という6つのカテゴリが抽出できた。大学として教養教育を充実させるため、この調査結果を教育現場で活用してゆくことを目指す。

（キーワード）読ませる、書かせる、考えさせる、読み書き教育、教養教育

はじめに

新見公立大学・新見公立短期大学では、開学時より教養教育の充実に心掛け、専門知識に加え、幅広い教養を持つ学生を育てることを目標としてきた。本学は、公立の阿新広域事務組合立新見女子短期大学として1980（昭和55）年4月に開学し、学科増設・校名変更・法人化等を経て、公立大学法人新見公立大学（2010年4月開学。看護学部看護学科）および新見公立短期大学（幼児教育学科・地域福祉学科・地域看護学専攻科。看護学科は四大移行）として現在に至っている。本学では、教養教育を充実させるために、各学科においても様々な試みが行われている。例えば看護学部看護学科では、教養教育科目や初年次教育の充実はかかると目指してカリキュラムを作成し、これまでの3年課程短期大学教育時代にはなかった新しい科目として「基礎ゼミナール」を開講し、近年注目されているテュートリアル形式の導入を試みている¹⁾。

大学・短期大学全体としては、2003（平成15）年より各学科の教養関連科目を担当する教員を含む教養教育委員会を設置し、教養教育の充実に努めてきた。新たな試みとして、2011（平成23）年度には、本学教員が各自の授業でどのような読み書き教育を行っているかを調査することになり、将来構想委員会と教養教育委員会との合同調査を行った。調査の方法は、「読み書き教育に関する独自の工夫」について文書で自由に報告してもらう形をとった。その結果、全教員46名（育児休職者1名を除く）中、39名から事例が

集まった。教養教育委員会がこの調査結果をまとめ、本学の教育で活用してゆくこととなった。本稿は、本学教員による読み書き教育について、現時点（2011年度）での実践例を報告することを目的とする。

I. 調査目的

本学教員が各自の授業でどのような読み書き教育を行っているかということについて調査することを目的とした。大学として教養教育を充実させるため、調査結果を教育現場で活用してゆくことを目指す。

II. 調査方法

1. 調査対象：本学教員全員対象46名（但し、育児休職者1名を除く）。
2. 調査方法：

2011年5月の教授会で調査実施の目的を説明し、本学教員全員に学生の教養教育としての「読み」「書き」を中心とした教育方法を報告してもらうよう、協力を依頼した。委員会が準備した記入様式（エクセル・ワード）を全員にメール送信して依頼し、得られた報告から内容をコード化した。

3. 調査期間：2011年5月11日～6月10日

4. 調査項目：
各教員が日ごろ実施している「読み書き教育の独自の

*連絡先：福岡悦子 新見公立短期大学 地域看護学専攻科 718-8585 新見市西方1263-2

工夫」について、記述してもらった。

5. 分析方法

教員が作成した記述内容を、1内容1項目として分類し、意味内容の類似性に基づきサブカテゴリー、カテゴリー化した。

分析の信頼性と妥当性を高めるために研究者間で検討を重ねた。

6. 倫理的配慮

調査の回答をもって同意が得られたものとした。

Ⅲ. 結果

1. 回答者の概要

在職教員数46名（育児休職者1名を除く）中、回答者数39名、回答率84.7%であった。

教員の日ごろの「読み」「書き」教育の記述内容を分析した結果、295コードを抽出した。

意味の類似性にそって分析した結果、17のサブカテゴリーと6つのカテゴリーが抽出できた。コードを「」, サブカテゴリーを< >, カテゴリーを【】で示す。6つのカテゴリーは、【書かせる】【読ませる】【考えさせる】【発表させる】【まとめさせる】【その他】であった（表1）。

1. 書かせる

【書かせる】カテゴリーは5つのサブカテゴリーが構成され、全体に占める割合（以下割合とする）は48.8%であった。具体的な内容は<書き方の基本60>, <課題に対する書き方（レポート・試験の記述）23>, <実習関連の書き方29 ①実習記録に関すること（24）, ②実習後の手紙・お礼状（5）>, <研究・論文に関する書き方20>, <書き方の指導（その他）12>であった。

<書き方の基本>では、「文章構成について正しく表現できるよう何度も指導する」「『しかし』『したがって』などの接続詞の有効性を喚起する」「聴解力・読解力・文章表現の指導」「専門用語を漢字で書かせる」「授業後感想と質問を書かせる」「対象者に適した文章作成へ努力している」「てにをはなどの助詞の使い方の間違いによって、意味内容が違うという説明をし、修正させている」「段落構成を行い、段落間の関係性を明確にするよう求めている」「内容を重視することはもちろんだが、『ワンパラグラフ・ワンミーニング』といった文章作成ルール（形式）も厳しく指導している」などの記述が見られた。

<課題に対する書き方（レポート・試験の記述）>では、「授業中に、レポートを課す」「試験に記述を導入する」「毎日レポートを課題とし、レポートの書き方などその都度指導している」などの記述が見られた。

<実習関連の書き方>では、「内容、文法や言葉の使い方、誤字なども修正している」「現象をきちんと捉えているか」「漢字や専門用語を正しく使用するように指導」「誤字脱字が多いので、その点についても指導している」「用語を

正しく使用できるよう指導」「一連の実習記録を提出する」「内容、誤字、脱字、読みやすさ、専門用語の活用に意識して確認する」「情報を正しく記述しているか、用語の説明が誤りなくできているか」などの記述が見られた。

<研究・論文に関する書き方>では、「計画書や研究協力依頼書作成などの過程では、研究対象宛てに丁寧な文章が作成できるよう指導している」「目的を明確に書くこと、根拠に基づき論理的に文章を展開して書くことについて、繰り返し添削をしながら指導」「研究テーマ、キーワード等に注目させる」「文献の要約、文献の目的、文献の内容等をまとめさせる」「抄読会を行い、文章の体裁や誤字脱字などを指摘している」などの記述が見られた。

<書き方の指導（その他）>では、「ライフヒストリーを書かせる」「物語の台本を書かせる」「作品制作計画表を書かせる」「プロセスレコードを書かせる」「小児の成長発達の日安表を作成させる」等があった。

2. 読ませる

【読ませる】カテゴリーは5つのサブカテゴリーが構成された。割合は32.2%であり、内容は<読み方の指導45>, <音読（テキスト・教科書）させる28>, <読み方の指導（文献関連）9>, <読書の勧め8>, <読み方の指導（その他）5>であった。<読み方の指導>では、「英語の読み書き教育を中心に行っている」「講義ノートに授業内容の関連資料を掲載し、多くの文を読ませる」「新聞利用」等の記述が見られた。<読み方の指導（その他）>では、「読み、理解する力の指導」「文部省唱歌を読ませる」「小テストで読ませる」などが見られた。

3. 考えさせる

【考えさせる】カテゴリーは2つのサブカテゴリーが構成された。割合は6.8%で、内容は<思考力を養う13>, <グループ討議させる7>であった。<思考力を養う>では、「アイデア（特に仮説）を図式化させる」「実践したこと、感じたことなど文章化することで感性や思考力を養う」「プレゼンテーションの際表現力の指導を行う」などが見られた。

4. 発表させる

【発表させる】カテゴリーは2つのサブカテゴリーが構成された。割合は5.1%で、内容は<プレゼンテーション時の指導12>, <発表させる3>であった。<プレゼンテーション時の指導>では、「配布資料だけではなく、言葉遣い、発表時の態度も指導する」「全員が課題に取り組み、作成した資料をもとに教壇で発表させる」「パワーポイントの指導」の記述が見られた。<発表させる>では、「グループワーク後プレゼンテーションさせる」「口頭発表における敬語の指導」「姿勢や言葉遣い」があった。

表1 読み書きの分析

n=295

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
書かせる 144 (48.8%)	書き方の基本	60
	課題に対する書き方（レポート・試験の記述）	23
	実習関連の書き方	
	① 実習記録に関すること	24
	② 実習後の手紙・お礼状	5
	研究・論文に関する書き方	20
	書き方の指導（その他…ライフヒストリー・物語の台本・作品制作計画表・プロセスレコード・感想文等）	12
読ませる 95 (32.2%)	読み方の指導	45
	音読（テキスト・教科書）させる	28
	読み方の指導（文献関連）	9
	読書の勧め	8
	読み方の指導（その他）	5
考えさせる 20 (6.8%)	思考力を養う	13
	グループ討議させる	7
発表させる 15 (5.1%)	プレゼンテーション時の指導	12
	発表させる	3
まとめさせる 12 (4.1%)	表現力・まとめる力を養う	8
	意見・考えを持つ・まとめる	4
その他 9 (3.0%)	計算，造形表現の指導，コピーペースト防止他	9

5. まとめさせる

【まとめさせる】のカテゴリーは2つのサブカテゴリーが構成された。割合は4.1%で、内容は<表現力・まとめる力を養う8>、<意見・考えを持つ・まとめる4>であった。<表現力・まとめる力を養う>では、「表現力・まとめる力を養う」「限られた時間でまとめる力を養う」「授業の最後に授業内容をまとめさせる」の記述が見られた。<意見・考えを持つ・まとめる>では、「自分の意見や考えを持つこと」「保育に関する新聞記事を音読し、要点をまとめる」があった。

6. その他

【その他】のカテゴリーは1つのサブカテゴリー<その他9>が構成された。割合は3.0%で、内容は「計算等」「造形表現の指導」「コピーペースト防止」「シュミレーション教材を用いた実践実習」「コミュニケーション指導等」であった。

IV. 考察

1. 書かせる

「書かせる」では、144のコードのうち「書き方の基本」

のサブカテゴリー中のコードが60と最も多く、各教員が基本的な書き方の指導を行っていることがうかがえる。授業中においては、板書したものを書かせたり、講義ごとに講義内容に関する質問や感想を書かせたりしている。さらにレポート課題や、試験に記述式問題を課せるなど書く訓練を意識している。

看護、幼児教育、地域福祉、地域看護学専攻科の4学科とも対人援助の専門職養成であり、ライフヒストリー、プロセスレコード、小児の成長発達目安表の作成、物語の台本や作品制作計画表など各学科の特性に応じた書かせる機会がつけられている。さらに4学科とも実習を必要とする学科であり、実習記録や実習先へのお礼状や手紙など社会人としての準備教育として必要とされる書く訓練がされている。

「書かせる」指導における集大成は、研究論文の作成である。各学科とも専門職として必要とされる専門的な知識や技術を身につけるための学習の中で「読み」「書き」「考える」「まとめる」「発表する」という訓練が、卒業研究論文に集約されているものと考えられる。

2. 読ませる

「読ませる」は、5つのサブカテゴリーで構成されてい

る。95のコードのうち「読み方の指導」が45と最も多くなっている。これは、教員が授業中に教科書などを読ませて、誤読や読めない漢字などの指導を行っているものである。次に「音読させる」が28となっている。これは、読む機会をあたえるために教科書を音読させているものであり、「読み方の指導」とあわせてほとんどの教員が授業で使用する教科書を使用して読ませることを指導していることがうかがえる。また、授業で参考資料として使用する新聞記事や実践記録、参考文献などを読ませることで、読む力や理解力を養おうという教員の努力など、それぞれの専門分野で独自のアイデアを用いてさまざまに工夫して指導していることがうかがえる。さらに、授業の中で各専門領域の推薦図書を示すなどして、学生に多くの書物を紹介し読ませるよう促している。

3. 考えさせる

先述のように「考えさせる」の中には、2つのサブカテゴリーが構成され、＜思考力を養う＞と＜グループ討議させる＞であった。＜思考力を養う＞では、「アイデア（特に仮説）を図式化させる」「実践したこと、感じたことなど文章化することで感性や思考力を養う」「プレゼンテーションの際表現力の指導を行う」などが見られた。これらは、どの分野においても必要なことであると考えられる。また＜グループ討議させる＞には「実習でディスカッションさせる」や「グループ討議し、KJ法で抽象化させる練習を行う」などの記述が見られた。グループ討議についても、本学の卒業生のほとんどが就職する看護・保育・介護などの分野においても同職種間あるいは他(多)職種間での討議は非常に重要なこととなるので、学生時代に養っておくことが必要である。

4. 発表させる

ここでも2つのサブカテゴリーが構成され、＜プレゼンテーション時の指導＞と＜発表させる＞であった。最近では様々な分野においてプレゼンテーション能力が求められるため、教養教育としてプレゼンテーション能力の養成を行うことは有意義なことであると考えられる。＜プレゼンテーション時の指導＞では、「配布資料だけではなく、言葉遣い、発表時の態度も指導する」「全員が課題に取り組み、作

成した資料をもとに教壇で発表させる」「パワーポイントの指導」の記述が見られたが、どれも実践的な内容であると考えられる。また＜発表させる＞のカテゴリー下では、「グループワーク後プレゼンテーションさせる」「口頭発表における敬語の指導」「姿勢や言葉遣い」が見られたが、これらもプレゼンテーションを行う上で重要な点である。

5. まとめさせる

ここでも2つのサブカテゴリーが構成され、＜表現力・まとめる力を養う＞と＜意見・考えを持つ・まとめる＞であった。＜表現力・まとめる力を養う＞の中に見られる「表現力・まとめる力を養う」「限られた時間でまとめる力を養う」「授業の最後に授業内容をまとめさせる」なども学生達が社会に出てから役に立つ練習になるものであると考えられる。また、＜意見・考えを持つ・まとめる＞に分類された「自分の意見や考えを持つこと」も、概して日本人は自分の意見や考えを持たないことが多いと言われる現状から、国際的観点から考えても重要なことと思われる。また「保育に関する新聞記事を音読し、要点をまとめる」も見られNIE (Newspaper in Education) の実践例であるが、これは保育以外の分野でも応用が可能であろう。

6. その他

その他については全9件の記述が見られた。その中で、「計算の指導」については、特に薬品の濃度等について間違えることが許されない看護学科において重要である。また「造形表現の指導」は幼児教育学科において特に大切なことであるが、利用者や患者のレクリエーション活動のことを考えれば地域福祉学科や看護学科でも必要なことである。そして「コピーアンドペーストの防止」についての指導は、インターネットを利用した資料収集が中心となりつつあるこの時代に、極めて重要で必要なことであるのは言うまでもない。

文献

- 1) 原田信之：初年次教育におけるテュートリアル形式導入の試み ―看護学部基礎科目「基礎ゼミナール」での実践―。新見公立大学紀要, 31, 183-189, 2010.

**Instruction of Basic Reading and Writing in Liberal Arts Education
— Attempts Made by the Faculty Members of Niimi College —**

Etsuko FUKUOKA, Nobuyuki HARADA, Tomiko KUBOTA, Junko YOSHIMURA, Kiyoshi YAMAUCHI

Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

Niimi College has put great emphasis on education of liberal arts. In 2011, Future Planning Committee and Liberal Arts Education Committee jointly conducted questionnaire to the faculty members on how to educate basic reading and writing in their instruction. The questionnaire was a free description style, in which each member of the faculty could explain his/her own attempts in teaching. Out of 46 full-time members of the faculty (one of them was on maternity leave), 39 responded. (The response rate was 84.7%.) All the descriptions were sorted out into 6 categories including: 1) writing, 2) reading, 3) thinking, 4) presenting, 5) summarizing, and 6) others. We believe that we will be able to get feedbacks from the responses in order to better Niimi College's liberal arts education.

Key words: reading, writing, thinking, instruction in basic reading and writing, liberal arts education